

科目名		応用科目Ⅱ		対象	社会人	単位	※履修証明プログラム	
担当	前田 豊樹		共同担当 教員	野々村 雅之		開講期	半期	
到達目標						学習成果の到達目標		
①健康増進にむけた温泉の利用法を説明できる。						知能	主体性	就業力
②安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げられる。						技能	意欲	協働
						○	○	○
授業の概要								
温泉地に国内外から集まる観光客に、心身の健康を保つ温泉利用を案内できる「温泉コンシェルジュ」になるために、温泉の人体に対する生物学的効果の概要を理解してもらう。また、学んだ知識を基に、より実践的な健康プログラムの提案ができることを目的とした、温泉内での実地トレーニングも行う。								
授業内容								
<p>1. 「温泉医療療養指導」</p> <p>①温泉医療についての総論を学ぶ 温泉は健康・医療に効果があると言われ、様々な疾病への活用がされている。ここでは、入浴法や温泉環境、健康増進効果などを総合的に学ぶ。</p> <p>②温泉医学 温泉療法の歴史と現代医療における意義、さまざまな温泉利用法などを学ぶ。</p> <p>2. 「温泉入浴指導員養成講座」</p> <p>③温熱生理学 温熱作用が身体にもたらす影響や、安全な入浴方法などについて学ぶ。</p> <p>④健康学・・・双方向（グループワーク） 健康資源を活用したプログラム作成を行う。</p> <p>⑤入浴プログラム指導実習・・・実地 入浴プログラムづくりと体験、水中での運動・ストレッチ</p> <p>⑥救命講習・・・実地 実際の観光・福祉現場等で活用できることを目標に、救急法実習と心肺蘇生法実習を学ぶ。</p> <p>⑦温泉入浴指導員試験 本科目において学びの到達度を図ると同時に、厚生労働省通知準拠資格である「温泉入浴指導員」取得をめざし検定試験を受ける。</p>								
準備学習 (予習・復習)	各自、温泉や別府観光に関する資料を収集したりファイル化したりすることが必要です。					オフィス アワー	授業の前後に受け付け ます	
評価方法 基準	学習課題への対応（30%）、最終試験（40%）、責任感や積極性等の授業中の態度（40%）による総合評価							
テキスト	講師が授業ごとに資料を配付する					備考		
参考資料								